

事業所名

放課後等デイサービス さくら

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和6 年

12 月

1 日

法人（事業所）理念		五感にしなやかに対応し、感性豊かな環境づくりを通し共に生きる力を育む						
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・ お家に帰って眠る前に1日を思い出し、「今日さくらでやった活動、楽しかったなあ」「職員さんが〇〇って言うてくれて、嬉しかったなあ」と感じていただきニコニコしてしまうような療育活動を心掛けます。 ・ 障害児である前に一人のひととしての個性や関わりを大切に、日々心のもった関わりを大切にします。 ・ 一日の最後に通う場として、「あー今日も楽しかった！」と感ずることができ、充実感を持って自宅に帰ることができるよう支援します。 ・ お子様ができるようになったことや成長を感じたり職員と他愛ない話をしたりすることで、ご家族の方々が「もうちょっと頑張ってみようかな」と少しでも心が軽くなるような場所になることを目指します。 						
営業時間		9 時	0 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり ※要相談	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や学校等と連携し、一人一人の健康状態について情報共有をおこない支援に活用します。 ・ 表情や仕草などを観察し、普段と異なる様子に気付けるようきめ細やかな状態把握を心掛けます。 ・ 医療的ケアが必要なお子様に対し、適切に医療的ケアを受けられるようそれぞれに応じた医療的ケアの実施や医療機器の準備、環境整備をおこないます。 ・ 主治医の指示に基づき、看護師による適切で安全な医療的ケアをおこないます。 ・ 感染症に対して適切な予防・対策をします。 ・ 食物アレルギーや一人一人の摂食の特徴に配慮し、安全な環境で食事やおやつを楽しく食べることができるよう支援します。 ・ ほっと一息つける場・リラックスできる場として、静と動のメリハリをつけながら心や体を休めることができるような環境設定をします。 <p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じてトイレトレーニングをおこない、トイレでの排泄ができるよう取り組みます。 ・ 関係機関と連携し、一人一人に合った摂食訓練や自助具を使った自食の訓練を提供し食べることが楽しいと感ずることができるよう関わります。 ・ 衣類の着脱や日常生活の中での協力動作を促し、日常生活動作を習得できるよう支援します。 						
	運動・感覚	<p>運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に医療機関の小児リハビリの見学に行き、専門職のアドバイスに基づいた機能訓練を提供します。 ・ 車椅子・バギー・各種補装具を適切に使用し、身体の変形・拘縮の進行を予防したり安楽な姿勢を保持したりすることができるようにします。 ・ 必要に応じて介助歩行や歩行器を使った歩行訓練をおこない、身体機能の維持・向上を図ります。 ・ 遊びや療育活動を通して手先の微細運動を促せるよう支援します。 <p>感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて補聴器・眼鏡などの補助機器を使い、感覚促進の補助をおこないます。 ・ 各種補助器具について必要な知識を持ち、適切な取り扱いができるようにします。 ・ 遊びの中で音・光・匂いなど様々な感覚に触れることができるよう支援します。 ・ 様々な感覚に触れることで、自分から手や体を動かそうとする意欲が育まれるよう関わります。 						
	認知・行動	<p>認知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5感を意識した療育活動をおこない、見る・聞く・触れる・感ずる体験を通して認知機能の発達を促します。 ・ 制作や知育玩具などを使い、目と手の共同作業や色のマッチング、追視や注視の訓練、手先のコントロール、簡単な因果関係の理解などができるよう支援します。 ・ タッチで数を数えたり時間や日にちを確認する機会を持ち、数字の概念を習得できるようにします。 ・ 粘土や新聞紙、風船遊びなどを通して色や形の変化を感じられるような遊びを提供します。 <p>行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達に応じて数字の概念を習得することで、今後の予定や近い未来のことが認識ができ、物事を楽しみにしたり安心して待つことができたりするよう支援します。 ・ コミュニケーションの困難性について、関係機関と連携し適切な方法が取得できるよう支援します。 ・ 外出を通して日々の季節の変化を感じていただける機会を提供します。 						

	<p>言語 コミュニケーション</p>	<p>言語 ・発声やお子様なりの言葉から気持ちを汲み取り、相槌を打ったり思いを代弁して伝えたりして気持ちの言語化を助けます。 ・日常的な声掛けや絵本の読み聞かせ、手遊び歌などを通して言葉の理解や発語を促します。</p> <p>コミュニケーション ・楽しい遊びや支援者との関わりの中で周りの人との信頼関係を築き、安心して自分の気持ちを伝えられるよう支援します。 ・視線やタッチによる2者選択やジェスチャー、電子メモパッドでの筆談など、一人一人に合ったコミュニケーション手段を使い意思表示ができるよう支援します。 ・表情や仕草、発声、体の細かな動きなどから感情を読み取り、応答的な関わりを通して安心感を感じられるよう関わります。</p>	
	<p>人間関係 社会性</p>	<p>人間関係 ・職員やお友達との信頼関係が作れるような療育活動をおこない、遊びの中で社会性や他者との信頼関係が築けるよう関わります。 ・安心できる環境のなかで少しずつ力を伸ばし、できたことを称賛・共有しながら自己肯定感を高められるような関わりを心掛けます。</p> <p>社会性 ・手遊びや体操、制作などの場面で模倣行動を促し、社会性や相手への意識を育めるよう支援します。 ・図書館や公園などの公共施設への外出を通し、地域交流や公共の場でのルール・マナーを学び感じていただける機会を提供します。</p>	
	<p>家族支援</p>	<p>・利用時にはご家族、学校の先生などとの丁寧な引継ぎを心掛け、安心して事業所を利用出来るよう心掛けます。 ・各種相談に乗ったり、ご家族からのお話を傾聴して安心してお子様と関わることができるようご家族と同じ目線に立って一緒に考えていきます。 ・気軽な気持ちで相談できるような関係作りに努めます。</p> 	<p>移行支援</p> <p>・児童発達支援センターからの移行の際は関係機関との情報共有に努め、安心して新しい環境や生活リズムに慣れることができるようにします。 ・お子様の体の成長や気持ちの変化に対する不安に柔軟に対応します。 ・学校卒業後を見据えた療育活動や社会活動を通し、社会に出る準備ができるよう関わります。 ・成人期移行時は、関係機関と連携しそれぞれのお子様にあった環境にスムーズに移行できるよう情報提供をします。</p>
	<p>地域支援・地域連携</p>	<p>・公共機関への外出や各所ボランティア団体との交流の機会を持ち、地域社会と交流できるようにします。 ・他事業所や学校などの関係機関と連携し、お子様にとって安心して1日を過ごすことができるよう支援します。</p>	<p>職員の質の向上</p> <p>・障害やてんかんなどの疾病・医療的ケア、体の動きなどについての専門的知識の習得に努めます。 ・療育、虐待防止、障害児支援などの研修に参加し、重症心身障害児に対する理解を深めていきます。</p>
	<p>主な行事等</p> <p>お花見、スイカ割り、スカイコート勝沼納涼祭、クリスマス会、誕生日会</p>     		